

キシリトールチョコレートによる 小児のう蝕予防

○本多 祥子、山口 登
(くろめ東町歯科医院)

【目的】小児のう蝕予防には、3歳までの甘味制限と定期検診が有効とされている。しかし、小児の保育環境において甘味食品が好まれることから、依然として乳歯のう蝕予防は困難となっている。当院は開院後3年を経過し、福岡県久留米市を中心とした筑後地区一円において小児から成人まで幅広く予防歯科を推進してきた。その中で小児に導入が容易なキシリトールチョコレート(Xyl-Cho)を用いたう蝕予防効果について報告する。

【対象と方法】まず、同意の得られた当院の患児(3~7歳児)にXyl-Cho摂取前のう蝕感受性を調べるため歯垢を検体としたCAT21テスト(ウイルデント社製)を行った。その後、同患児に100% Xyl-Cho 3g(ヘルスケア21社製)を2週間連続して就寝前の口腔清掃後摂取してもらった。う蝕予防効果の判定は、2週間後にCAT21テストを行い、前後での数値の変化をPaired t-testにて統計的解析を行った。また、歯垢染色液(メルサーージュPCベレット、松風)を用いて、Xyl-Cho摂取前後のプラーク付着状態を比較した。なお、本システムを導入している患児は、フッ化物塗布や洗口および他のう蝕予防システムを実施していない。

【結果および考察】Xyl-Choを2週間摂取した患児においてCAT21テスト前後での統計的解析の結果、有意な数値の低下($P<0.05$, $N=10$)が認められた。同患児は、比較的う蝕感受性が高く、ほとんどう蝕経験があった。それで当院でのう蝕治療後の予防に対する意識が高く、Xyl-Cho導入に積極的であった。また、Xyl-Cho摂取前後でのプラーク付着密度も全体的に明らかな減少が認められた(図1、2)。下顎前歯部に顕著であるのは本来自浄性が高いため、付着性の高いう蝕原性細菌が減少しているものと考えられる。これまで歯磨き習慣が不良であった患児もXyl-Choを与える

ことで歯磨きに積極的になるなど良好な教育効果も得られている。さらに、現在のう蝕感受性低下維持を希望された数名の患児には週2回の継続摂取を行っている。キシリトール含有の食品としてガムなど市販されているが、小児の場合、元来の嗜好性を考慮するとチョコレートの方が受け入れやすいと思われる。このように、Xyl-Choは小児および障がい者のう蝕予防を家族で楽しんで行えるツールとして有用である可能性が示唆された。



図1. Xyl-Cho 摂取前の歯垢染色写真



図2. 同一患児のXyl-Cho 摂取2週間後の歯垢染色写真